

校長の 独り言



先月、「日本の教員 世界「多忙」という記事が新聞に載っていました。OECDが調査した一週間当たりの中学校教員の勤務時間は、四八カ国の平均が三八・三時間なのに対して、日本は五六・〇時間。これをもとに計算すると、月七〇時間、年八四〇時間程度、残業していることとなります。小学校教員も同じような調査結果でした。文部科学省の指針では、残業時間の上限を原則、「月四五時間、年三六〇時間」としているのに、驚くような残業時間になります。その残業時間の多くが、中学校では部活動指導に費やされているのです。

私も中学校に勤務していた頃、部活動の顧問を任せられ、指導に当たっていました。子ども達の頑張りや保護者の応援により、ステキな思い出をたくさんつくることができました。部活動指導に中学校教員としてのやりがいや生きがいを感じていたものです。

先日、いつも練習試合等でお世話になっていた県外の先生に、久しぶりにお会いしました。一緒に合宿したこと、出場した大会の時のことなど、あの当時は懐かしみながら話をしました。

一通り話をした後、その先生がしみりとこんな話をされました。「部活動指導はやりがいがある反面、とても辛いものであった。勝ったら勝ったで、保護者の期待は膨らみ、プレッシャーが大きくなる。負けたら負けただけ、保護者からは、なぜ我が子のときは勝たせてくれないのかと責められる。だから、勝たせてやらねばと一生懸命に部活動指導をすればするほど、大切な家族と過ごす時間がなくなっていく。もっと違った部活動のやり方があったのかな・・・。」

この先生は、全国大会に出場する選手を何人も育てている方です。文部科学省は、部活動を「学校の業務だが、必ずしも教師が担う必要のない業務」として位置づけ、中学校部活動の在り方について議論されることが増えてきました。小学校のプール開放事業、中学校の部活動。どちらも簡単に答えが出る問題ではありませんが、一緒に考えていきたいと思います。

体育大会実行委員が、体育大会のスローガンの報告に来室しました。スローガンは『平成から令和へ 新たな歴史をつくれ!! チーム今富』です。仲間と力を合わせてつくり上げることの素晴らしさを味わえる体育大会、保護者や地域の方に感謝の気持ちを伝えられる体育大会にしていきたいという思いが、「新たな歴史をつくれ」に込められています。“日本一”の体育大会を目指します。



文責；山名 聡

『サルビア』です。ブラジルが原産国のようです。花名の由来は、ラテン語の「salvus（健康、よい状態）」を語源としています。ローマ時代より、薬草として用いられたことから、健康というラテン語が付けられたそうです。

『サルビア』の花言葉は「家族愛」です。いよいよ夏休みが始まります。子どもには長い休みとなりますが、大人は簡単に仕事を休めません。しかし、この夏休み、子どもと過ごす時間を少しでもつくって「家族愛」を深めていただくと嬉しいです。



ですが、大人は簡単に仕事を休めません。しかし、この夏休み、子どもと過ごす時間を少しでもつくって「家族愛」を深めていただくと嬉しいです。



今富っ子

小浜市立今富小学校
令和元年7月1日
=7月号=

夏休みのプール開放について 一緒に考えていきましょう



今年度、小浜市教育委員会から小学校プールの開放事業について、①プール開放事業を実施する場合は、教員も監視員としてつくこと（事故が起きた時、日本スポーツ振興センターの給付対象となる）、②今後のプール開放事業の継続については、保護者とよく相談すること、との指導がありました。

小学校プールの開放事業は、小学校にプール施設がつけられた当時、夏休み中の子どもの遊び場を確保したいという、保護者・地域の要望により始まったと考えられます。本校では、学校プールの開放事業に関する文書が、PTA会長名で配布されていることから推察されます。

プール開放事業について、本校では、二年前から、PTA委員のみなさんで、プール監視員をしていただくようにしました。教職員の働き方改革の視点から、夏休み中のプール監視は、『基本的には学校以外が担うべき業務』と捉え、プール監視を保護者でお願いできればと考えたこと。教員がプール監視につかず、保護者による監視でプール開放事業を実施している小学校が、小浜市内に何校もあったこと。このようなことから、PTAの了解を得て変更させていただきます。

しかし、小浜市教育委員会から前述の指導があったことを受け、PTA三役に集まっていたとき、夏休み中のプール開放事業について協議していただきました。

- ①今年度は教員も監視員に入り、プール開放事業を実施する
- ②安全面から開放期間を短くし、プール監視員の人数を増やす
(例年 四人体制 → 今年度 七〜八人体制)
- ③次年度も引き続き、同じ運営方法でプール開放事業を実施する
- ④令和三年度以降のプール開放事業について、継続の有無を含め、今年度・次年度の二年間かけて検討する

という話になりました。

プール監視をしていただいたPTA委員の方から、急な用事により監視業務を欠席される方がでてきたり、プールに来る子ども人数が多い日があったりするので、監視員の割当人数を増やして欲しいとの声がありました。そこで、②のような対策を取るようになりました。

④については、炎天下でプール監視をするPTA委員や教員の健康面（熱中症）、PTA委員の負担面（仕事の調整をしたり、家族が代わりに監視員をしたり）、行き帰りの子どもの安全面（熱中症や交通事故）、プール事故が起きたときのこと等、様々な角度から検討し、プール開放事業を今後も継続していくのか、継続していくのであれば、運営方法はどうかを考えていく必要が出てきました。

PTA委員の方にお世話になり行ってきた「夏休みのプール開放」について、これから一緒に考えていきましょう。

ご意見・ご感想をお聞かせください。

（キリトリせん）

お名前（ ）
